

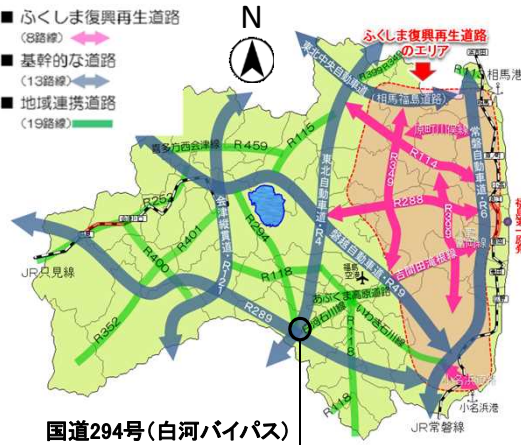
整理番号	103	事業名 〔地区名〕	交付金事業(道路) (再生・復興) 〔白河市 国道294号 白河バイパス〕	全体事業費 (百万円)	22,700	採択年度	H7	完成目標年度*	R2 (H32)	担当部(局)課名	土木部 道路整備課
------	-----	--------------	--	----------------	--------	------	----	---------	-------------	----------	-----------

※完成目標年度は、標準的な工程を想定して設定しているが、毎年度の予算は担保されたものではなく、用地取得状況や施工上の条件変化等、不確定な要素があるため、確定したものではない。

評価対象理由	計画変更を行おうとする事業	前回評価時の対応方針	委員会からの提言:事業継続、付帯意見等:無し、県の対応方針:事業継続
--------	---------------	------------	------------------------------------

1 事業の概要

- 国道294号(白河バイパス)は、「福島県総合計画(ふくしま新生プラン)」及び「福島県復興計画(第3次)」の「復興まちづくり・交流ネットワーク基盤強化プロジェクト」や「緊急輸送道路(第二次確保路線)」に位置付けられている重要な路線である。
- 国道294号(白河バイパス)は、県土の骨格となる6本の連携軸の南部軸を補完しており、中通りと会津方を連絡し、東日本大震災からの復興を強力に支援するとともに、中心市街地の交通渋滞解消や中心市街地活性化への支援を図るものである。



【写真① 国道289号の交通混雑状況】

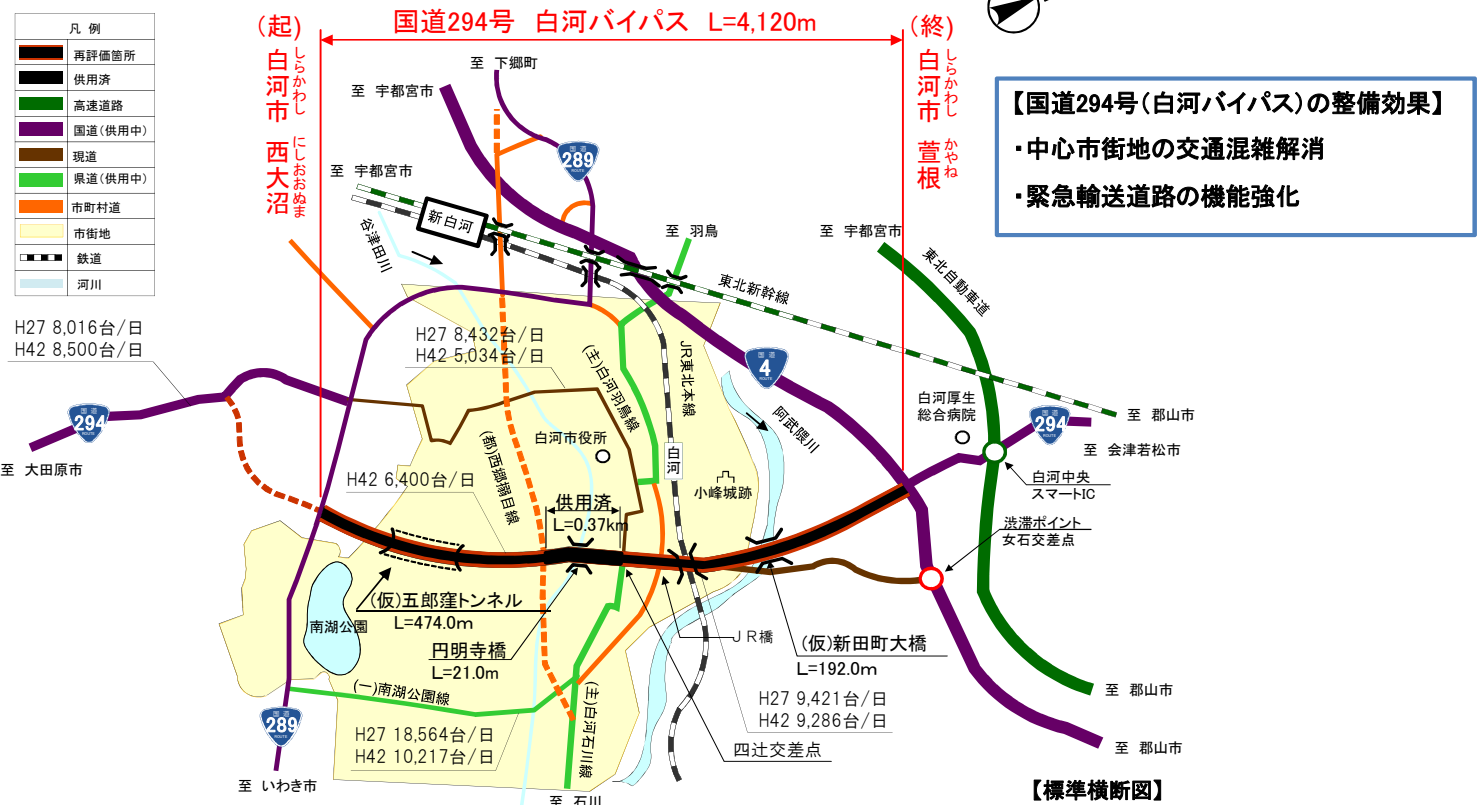


【写真② 市街地内の交通状況(狭隘区間)】



再評価箇所	再評価箇所
供用済	供用済
高速道路	高速道路
国道(供用中)	国道(供用中)
現道	現道
県道(供用中)	県道(供用中)
市町村道	市町村道
市街地	市街地
鉄道	鉄道
河川	河川

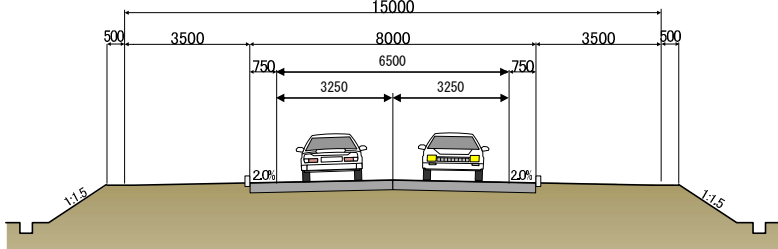
H27 8,016台/日
H42 8,500台/日



【国道294号(白河バイパス)の整備効果】

- 中心市街地の交通混雑解消
- 緊急輸送道路の機能強化

【標準横断面図】



- 延長 L=4,120m
- 幅員 W=6.5(15.0)m
- 主要構造物 (仮)五郎窪トンネルL=474m
(仮)新田町大橋L=192m

2 事業の進捗状況等

評価基準 A:特に問題なし、B:問題あるが解決の見込みあり、C:問題があり解決が難しい

(百万円)

全体事業費		事業 執行済額	年度別執行額	
前回	今回 (前回差比)		～30年度	31年度見込
15,090	22,700 (差+7,610) (比+50.4%)	13,959	13,959	6,166

(1)現状及び見通し [評価 A・**B**・C]

- ・(都)西郷搦目線から四辻交差点までの約L=0.4km区間は、平成25年度に供用開始した。
- ・工事は、平成30年度末までに47%完了
- ・増額理由:小峰城跡が国の重要文化財に指定されたことを受け、ルートの一部修正が必要となり、大型補償及び橋梁基礎形式が変更となったため。掘削工において土質が土砂から中硬岩に変更となったことや、残土運搬距離が変更となったため。トンネル工において、掘削に伴いトンネル坑口部の地山の補強が追加となったため。
- ・平成31年度工事:(仮)五郎窪TN、電線共同溝、JR橋、(仮)新田町大橋上下部工

(2)期待される効果 [評価 **A**・B・C]

- ・緊急輸送道路(第二次確保路線)に位置づけられている重要な路線であることから、災害時の広域的な避難や緊急物資等の輸送を可能にする災害に強い交通体系を確保できる。
- ・白河市街地の慢性的な混雑を解消し、良好な生活環境を確保

(3)事業を巡る社会経済情勢の現状・変化、地元住民等の意向 [評価 **A**・B・C]

- ・白河バイパスは、白河市における道路網の骨格を担う道路であることから、地元住民から早期完成を望む声が日に日に高まっている。
- ・白河市及び周辺市町村長などで構成する「国道294号建設期成同盟会」より早期整備への強い要望が出ている。
- ・本事業に期待する地域の熱が高く、白河市を中心に協力体制が確立しており、白河市中心市街地活性化協議会や、谷津田川景観研究会の委員の方々と中心市街地を縦断する幹線道路のあり方や景観について地域との意見交換を行っている。

(4)評価指標の状況 [評価 **A**・B・C]

評価指標	採択時 (H21)	前回 (H26)	完成時 (R2)	備考
混雑度	0.93～1.78	1.05～1.60	0.41～0.88	
救急アクセス※	—	6分	5分	

※国道289号から白河厚生総合病院までの所要時間

【その他参考となる数値】

・現況交通量(H27) 9,421台/日 → 将来交通量(H42(R12))9,286台/日

(5)費用対効果の状況・要因の変化 [評価 **A**・B・C]

$$B/C = \frac{269.2+10.6+0.9}{237.8+2.1} = 1.17 \text{ (前回値1.26)}$$

- ・[B]道路事業における総便益(走行時間短縮便益+走行経費減少便益+交通事故減少便益の合計)
- ・[C]道路事業に要する総費用(道路整備に要する事業費+道路維持管理に要する費用の合計)
- ・ルートの一部修正により大型補償及び橋梁基礎形式が変更になったため。掘削工の土質条件が土砂から中硬岩に変更となったことや、残土運搬距離が変更となったこと、トンネル工において、掘削に伴いトンネル坑口部の地山の補強が追加となったことにより、総費用(C)が増加し、費用対効果が減少した。

【参考値】

$$B/C = \frac{269.2+10.6+0.9+51.7^{*1}}{237.8+2.1} \times 1.500^{*2} = 2.08$$

*1:追加便益:51.7億円(迂回の解消効果、冬期交通の効果、CO2排出削減効果、救命救急へのアクセス向上効果、防災効果)

*2:地域修正係数:1.500(中通り)

(6)コスト削減の取組・代替案の検討状況 [評価 **A**・B・C]

- ・小峰城跡、既存市街地、南湖公園、災害復興公営住宅、白河厚生病院等のアクセス向上に配慮した最適ルートのため、代替案立案の可能性はなし。

3 評価

(1)県の対応方針案	(2)理由
見直し継続	計画変更により事業費が増加するものの、前回評価時と同様の効果発現が見込まれ、交通混雑の解消や緊急輸送道路の機能強化に寄与するため、計画変更により事業を進める必要がある。